

マンモハン・シン首相閣下講演（日印協会仮訳）

2013年5月28日

日印協会会長 森 喜朗閣下
日印友好議員連盟会長 町村信孝閣下
民間外交推進協会会長 金川 千尋様
ご列席の皆様

私は、インドの友人たちで満たされたこの会場に喜んで参りました。特に、森さんがご列席いただいたことは有難く、光栄に存じます。

森さんは、偉大な個人的友人であることにとどまりません。インドの偉大な友人でもあります。森さんは総理大臣として、両国及び両国民の古くからの関係に新たな局面を開いて下さいました。森さんに対しパドマ・ブーシャン勲章を差し上げたのもそれが理由です。

友人の皆様

アジアの興隆は、1世紀以上前にこの「日出国」から始まりました。以来、日本は我々に前に進む道を示してくれました。インドと日本は、興隆するアジアというヴィジョンを共有します。ここ10年以來、両国は共通の価値観と利益を基礎に新たな関係を確立しました。

日本の近代知的産業国家としての興隆は、インドの偉大な指導者たちにとってインスピレーションの源となりました。哲学者スワミ・ヴィヴェカナンダ、詩人ラビンドラナート・タゴール、技術者ヴィシュベシワラリア、愛国者スバシュ・チャンドラ・ボース、近代インドの建設者ジャワハルラル・ネルー等々、全ての人々が、19世紀から20世紀における日本の偉大な成果に触発されました。

最近では、インドの漸進的ながら継続する経済的興隆は、両国がともに協力し協働する新たな機会を作り出しました。インドは、日本の技術と投資を必要としております。他方、インドも、日本の全般的な繁栄と成長のために必要な成長とグローバリゼーションの機会を増やしつつあります。

友人の皆様

私は、安倍晋三総理から本年最初の客として東京に来るようご招待いただいたことを、深く名誉と考えました。不幸なことに、インド国会との関係で、その時点で訪日することはできませんでした。桜の季節も逃しましたが、我々の偉大な未来を意味する春の季節に訪日することができたことを喜んでおります。私はまた、両国民の友情とくに両

国の企業間のパートナーシップと国防・戦略コミュニティー間の協力が、安倍総理のリーダーシップのもとで花開くものと確信します。

この機会に、安倍総理が2007年8月に行ったインスピレーション豊かでヴィジョンのある演説を想起したいと思います。安倍総理は、「二つの海—インド洋と太平洋—の交わり」と題し、両国関係の枠組みを定義づけました。安倍総理と私は、協力して、戦略的パートナーシップを強化し、経済関係に新たなモメンタムを与え、共通の地域的および地球的規模の利益を深めて参ります。

皆様、

インド洋—太平洋地域は、人類史上これまでみなかったような規模とスピードで、深い社会的経済的变化を目のあたりにしています。この地域は、自由、機会および繁栄の面で、この半世紀の間、前代未聞の興隆を経験しました。

同時に、この地域は、多くの挑戦、未解決ないし未決着の問題に直面しています。相互依存の増大にもかかわらず、歴史に関わる相違は残り、繁栄も各国内および各国間の格差をなくしておりません。安定と安全への脅威は続いております。

このような変化と変遷においてこそ、我々が今世紀のアジアにとっての新たな進路を開く偉大な機会となるわけです。世界経済の重心と成長のかじ取りはこの地域に移行しつつありますので、この地域の未来は、今世紀における世界の未来の輪郭を規定するものとなりましょう。

インドと日本は、この地域における主要国です。共通に持つ宗教的、文化的、精神的遺産は、平和、共存および多様性を具現するものであります。平和、繁栄および協力の雰囲気醸成し安全と繁栄の永続する基礎をきづくことは、我々の責任です。私は、この点で3つの分野での協力を提案したいと思います。

第1は、協議と協力の習慣を発展させ、相違点をマネージするための共通の原則を進展させ、一致点を強化し、共通の挑戦に立ち向かえるようにすることを可能にするような、地域機構やフォーラムを強化すべきです。

第2は、より広く深い地域経済統合を促進し、地域的連結性を強化すべきです。これによって、地域全体にわたるバランスのとれた広範な経済発展が促進され、さらによりバランスのとれた地域的機構への貢献がなされるでしょう。

第3は、インド洋および太平洋にわたる地域の海洋安全保障は、地域的および全地球的繁栄のために本質的な重要性をもちます。従って、我々は、国際法に従った航行と合法的商業活動の自由の原則を擁護し、海洋問題を平和的に解決し、海の持つ可能性を利用

するためにより意識的に協力し、また海賊のような海に関する共通の挑戦に対処すべきです。

友人の皆様

インドがこの地域に深く関与するのは、このようなビジョンによるからです。我々のルック・イースト政策(東方政策)は経済面を強調して始められましたが、今やその内容はより戦略的なものとなりました。我々の政治的関係は、全ての国およびアセアンのような国家グループとの間で密接になりました。我々は、貿易および経済協定のネットワークを発展させました。連結性を強調し、東アジアサミットやアセアン地域フォーラムのような地域的協力の要となる機構に積極的に参加しております。

インドの日本との関係は、ルック・イースト政策の中心です。日本は、繁栄に向けたアジアの興隆にインスピレーションを与え、アジアの未来と一体になっています。世界は、日本が成長のモメンタムを回復することに大きく依存しております。日本の企業、技術、革新への指導力およびアジアのルネッサンスのための牽引車となる能力は、ともに死活的に重要です。

インドの日本との関係は相互の経済にとって重要であるのみならず、インド洋と太平洋にまたがる広大なアジア地域の安定と繁栄を求める上で、インドは日本を当然のかつ必須不可欠なパートナーと見ております。

日印関係の力は、精神的、文化的、文明的な近さと民主主義、平和および自由への共通のコミットメントから来るものです。両国は、世界観を益々共有し、お互いの繁栄に大きく依存しております。海洋の安全保障は共通の利益であり、エネルギー安全保障については同じような挑戦に直面しております。両国の経済には強いシナジーがあり、繁栄のためには、オープンでルールを基礎とした国際貿易システムが必要です。国連安全保障理事会のための新たな仕組みについても、ともにこれを希求しております。

ここ数年、両国の政治安全保障には目立った進展がありました。日本は、我々が持っている 2 プラス 2、すなわち外務及び防衛省間の対話の唯一のパートナーです。我々は、日本の海上自衛隊と二国間の演習も始めました。

日本は、長い間、インドの経済発展努力にとって重要な里程標の一部でした。マルチ・スズキの協力は、インドにおいて産業発展の波に火をつけました。デリー・メトロプロジェクトは、公共運輸部門で同様の革命的刺激を与えました。両国間の二つの旗艦的プロジェクト、すなわち貨物専用線西回廊とデリー・ムンバイ産業大動脈は、その広がりおよび規模において比肩すべきものがありません。両国は、チェンナイ・ベンガルール間の産業回廊のような新しいプロジェクトを探求中です。両国間の包括的経済連携協定は 2011 年に開始されましたが、昨年にはレアアース分野での協力合意に署名すること

ができました。

皆様

以上のことは、両国がすでに豊かな関係にあることを意味しております。しかしながら、我々は、このパートナーシップが体現するヴィジョンにふさわしい、より高い目的を設定しております。従って、前に進むためには、共通の利害のある地域と問題について政治対話を強化し、戦略的協議を拡大しなければなりません。防衛・安全保障対話、軍事的演習および国防技術の協力は、拡大しなければなりません。グローバル及び地域的フォーラムにおいて、両国は協議し協力しなければなりません。

両国の関係は、また、貿易の拡大と投資関係に基礎をおかねばなりません。本日これより前、経団連の会合で経済界の指導者の皆様に申し上げた通り、インドの経済成長は過去 10 年間に経験した年率 8% プラスの成長を間もなく回復することは、我々の約束であり達成を確信しております。

この確信は、インドのファンダメンタルズの強さ、旺盛な企業家精神、最近インドが行った政策面の改革とメガプロジェクト実施の加速から由来します。

インドの大きなマーケットへの日本の一層の投資は、両国の経済及び戦略的な利益です。このような考えは、ハイテク面の交流、クリーン・エネルギー、エネルギー安全保障および技術の発展をも導くものです。

安倍総理と私は、(首脳会談では)豊かな話題について議論するでしょう。我々は協力して、両国関係を特別深く多様にした年次首脳会議や多くのイニシャティブを開始しました。我々は、両国、この地域そして世界のために両国関係の高まるモメンタムを維持するのみならず、新たな内容を加えそれを実行するでしょう。

友人の皆様

終わりに当たり、私が最初にこの美しい国を訪問した 1971 年以来、日本は私の心に深く刻まれていることを申し上げたいと思います。両国関係が進展し繁栄することは私の夢であり、インドの首相としてこの 9 年間努力してきた目標でもあります。今日、日印関係が堅固な関係に転換したことに励まされます。皆様の御努力とイニシャティブこそ、引き続き両国関係にとって大きな力の源泉になることを信じてやみません。

有難うございました。

文責 日印協会理事長 平林博